

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
人間の尊厳と自立		前田晶子・外崎美香		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	講義	2単位
〔授業のねらい・目標〕					
「人間」の理解を基礎として、尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について捉え、介護場面における倫理的課題について対応するための基礎的能力を養う。自己の生活を振り返りながら、「人間」の多面的な理解を図り、生活者として尊厳のある生活・人生を送ることの意味を理解する。					
〔授業の内容〕					
1. 自己の生活の振り返りと「生活すること」		9. 身体的な意味での「自立支援」の理解		10. 精神的な面での「自立支援」の理解	
2. 人間理解と尊厳の考え方		11. 社会的な面での「自立支援」の理解		12. 介護における権利擁護と人権尊重	
3. 尊厳と自立をめぐる人間の歴史		12. 介護における権利擁護と人権尊重		13. 介護における「尊厳保持」について	
4. 尊厳と自立をまもる現代社会のしくみ		13. 介護における「尊厳保持」について		14. 介護における「自立支援」について	
5. 生活をとおした尊厳と自立の理解		14. 介護における「自立支援」について		15. 「よりよく生きる」こと	
6. 「権利」と「人権」		15. 「よりよく生きる」こと			
7. 権利擁護とアドボカシー					
8. 「自立」と「自律」					
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び評価の観点〕		
『新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解』中央法規出版			出席状況、平常点、試験を総合的に評価する。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
心身の発達		加賀谷 幸子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	講義	2単位
〔授業のねらい・目標〕					
1・人間の成長・発達の各段階における特徴と課題が理解できる。 2・性差による身体及び役割の違いが理解できる。 3・老化に伴う心身の変化の特徴と日常生活への影響が理解できる。 4・高齢者に多い疾患と観察のポイントが理解できる。					
〔授業の内容〕					
1・オリエンテーション		10・老化による健康上の変化と日常生活への影響①		11・老化による健康上の変化と日常生活への影響②	
2・人間の誕生と成長・発達過程①		11・老化による健康上の変化と日常生活への影響②		12・高齢者に多い疾病と症状	
3・人間の誕生と成長・発達過程② 性差		12・高齢者に多い疾病と症状		13・高齢者に多い疾病と日常生活上の留意点	
4・乳幼児期の成長・発達段階の特徴と課題		13・高齢者に多い疾病と日常生活上の留意点		14・保健・医療職との連携	
5・学童期の成長・発達段階の特徴と課題		14・保健・医療職との連携		15・まとめ	
6・思春期の成長・発達段階の特徴と課題		15・まとめ			
7・成人期の成長・発達段階の特徴と課題					
8・老年期の成長・発達段階の特徴と課題①					
9・老年期の成長・発達段階の特徴と課題②					
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び評価の観点〕		
新介護福祉士養成講座 1 1 発達と老化の理解 中央法規 他 適宜紹介			出席率・レポート・テスト・授業態度等の総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
高齢者論		福島 猛行		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	15回	30時間	講義・演習	2単位
[授業のねらい・目標]					
<p>高齢者の体験した歴史的事象、文化的背景を理解すると共に、発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理的変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。 （到達目標）・高齢者の生活文化を理解する・老年期の発達課題を理解する・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響を理解する</p>					
[授業の内容]					
1) 高齢者総論Ⅰ 2) 高齢者総論Ⅱ 3) 高齢者文化史Ⅰ（昭和初期） 4) 高齢者文化史Ⅱ（日中戦争期） 5) 高齢者文化史Ⅲ（太平洋戦争期） 6) 高齢者文化史Ⅳ（戦後混乱期） 7) 高齢者文化史Ⅴ（戦後復興期） 8) 高齢者文化史Ⅵ（高度成長期） 9) 高齢者文化史Ⅶ（景気停滞期）			10) 高齢者の生活に対する気持ち 11) 身体、精神、認知機能の変化と日常生活への影響 12) 老化と高齢者の精神活動 13) 経済的負担と高齢者の生活様式 14) 老化と高齢者の生死観の変化 15) 高齢者の生活改善とエンパワメント		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉士養成講座 第11巻 発達と老化の理解 中央法規出版			提出課題、レポート、出席状況で総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
認知症の基礎理解		葛西 淑子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
<p>・認知症を取り巻く歴史的背景や政策、今後の動向、認知症の人の生活実態、行動に対する医学的理解と生活面への影響について学び、的確なケアが提供できるための基礎知識を習得する。</p>					
[授業の内容]					
1・認知症を取り巻く状況 2・認知症の人の生活実態① 3・認知症の人の生活実態② 4・日本における認知症ケアの歴史 5・脳の仕組みと認知症① 6・脳の仕組みと認知症② 7・認知症の原因疾患と検査・治療 8・特徴的行動と脳の機能① 9・特徴的行動と脳の機能②			10・特徴的行動と脳の機能③ 11・特徴的行動と脳の機能④ 12・認知症の人の生活行動と社会生活① 13・認知症の人の生活行動と社会生活② 14・これからの認知症ケア 15・まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉士養成講座 第12巻「認知症の理解」			出席率・レポート・テスト・授業態度等の総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
音楽療法概論		三上 ゆかり		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
音楽療法の歴史や基本的な考え方を学ぶ。また、様々な活動を紹介しながら、対象者別セッション（音楽活動）の内容・目標・方法等の違いを学ぶ。					
[授業の内容]					
1. 音楽療法の歴史・定義		11. 音楽療法セッションの計画			
2. 音楽療法の考え方		12. 楽器について			
3. 音楽の生理的・心理的作用		13. 音の活用法			
4. 音楽の社会的機能		14. 音楽療法の評価			
5. 音楽療法の原理		15. まとめ			
6. 音楽療法の実際					
7～8. 障がい児・者の音楽療法		※音楽療法活動のDVD等も、適宜紹介する。			
9～10. 高齢者と音楽療法					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
村井靖児著「音楽療法の基礎」音楽之友社			①平常点 ②学期末筆記試験		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
レクリエーション実習		木村 博子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	後期			実習	1単位
[授業のねらい・目標]					
都道府県および市町村レクリエーション協会が地域で行っている事業および行事などをスタッフや参加者として体験する。そしてそれらに参加することで、レクリエーション・インストラクターとしての役割を理解する。					
[授業の内容]					
1. 都道府県および市町村レクリエーション協会が地域でどのような活動を行っているか理解する		4. 事業・行事・イベントの開催するプロセスや企画・実施方法を参加して体験する。			
2. 上記協会の実施する事業・行事・イベント等でスタッフがどのような働きをしているかを理解する。		A. 事業参加 B. 指導・運営スタッフ参加 上記の内3回以上参加すること。			
3. 福祉レクリエーション大会とうに参加する。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
なし			実習の参加態度をみる。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
ボランティア活動と現代社会		前田 晶子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	15時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
ボランティア活動について理解を深める。ボランティア活動を日常化し生活の中にとり入れ社会生活や職業生活を豊かにたくましく、生活する力を培う。					
[授業の内容]					
1 ボランティア活動とは			9 制度の充実活用とボランティア活動		
2 歴史と変遷			10 フィールドワーク・・・3		
3 ボランティア活動と人権			11 自己啓発の機会としてのボランティア活動・・・1		
4 活動の原則			12 自己啓発の機会としてのボランティア活動・・・2		
5 フィールドワーク・・・1			13 フィールドワーク・・・3		
6 ボランティアコーディネーターの役割			14 国際的ボランティア活動・・・1		
7 フィールドワーク・・・2			15 国際的ボランティア活動・・・2		
8 市民生活の充実とボランティア活動					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
その都度紹介する。			学習態度、レポート、発表等を総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護の基本Ⅰ①・②		安井 真木子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	60時間	講義・演習	4単位
[授業のねらい・目標]					
介護についての一般知識の習得、及び、介護における安全性、チームケアの必要性についての考察を深める。 （到達目標）・介護をとりまく状況を理解する・介護福祉士の役割と機能を支えるしくみを理解する・介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解する・介護従事者の安全確保について理解する。					
[授業の内容]					
現在の介護を取り巻く状況					
介護福祉士の役割（社会的役割）					
介護福祉士の役割（対人援助）					
介護福祉士とチームケア					
介護におけるリスクマネジメント					
介護従事者の安全確保					
今後の介護福祉士のあるべき姿					
まとめと発表					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉士養成講座第2巻・第4巻 中央法規出版			まとめと発表、出席状況にて総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護の基本Ⅱ		福島 猛行		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	15回	30時間	講義・演習	2単位
[授業のねらい・目標]					
利用者の尊厳保持に必要な介護倫理について、理解を深める。 （到達目標）・介護従事者に必要な倫理的背景について理解を深める・利用者の尊厳を支える 介護における倫理的背景について理解を深める					
[授業の内容]					
1) 倫理学の背景説明 2) 日本国憲法と利用者の権利Ⅰ 3) 日本国憲法と利用者の権利Ⅱ 4) 生命倫理学Ⅰ 5) 生命倫理学Ⅱ 6) 生命倫理学Ⅲ 7) 介護現場と功利主義 8) ケア倫理学Ⅰ 9) ケア倫理学Ⅱ			10) ケア倫理学Ⅲ 11) 県民性と倫理Ⅰ 12) 県民性と倫理Ⅱ 13) ターミナル期における倫理Ⅰ 14) ターミナル期における倫理Ⅱ 15) まとめと評価		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉士養成講座第4巻 介護の基本Ⅱ 中央法規出版			まとめ、出席状況にて総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
コミュニケーション技術Ⅰ		福島 猛行		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	15時間	講義・演習	2単位
[授業のねらい・目標]					
介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習をする。					
[授業の内容]					
1 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 2 話を聴く技法 3 利用者の感情表現を察する技法 4 納得と同意を得る技法 5 相談、助言、指導 6 意欲を引き出す技法 7 利用者と家族の関係作り 8 利用者本人と家族の意向の調整を図る技法			9 利用者と家族とのコミュニケーションの実際 10 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際 11 感覚機能が低下している人とのコミュニケーション 12 運動機能が低下している人とのコミュニケーション 13 認知機能が低下している人とのコミュニケーション 14 知覚機能が低下している人とのコミュニケーション 15 まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
中央法規			レポートとテストに平常点を総合的に加味します。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
コミュニケーション技術Ⅱ		福島 猛行		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	15回	30時間	講義・演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・文章（記録・報告書など）を通じて、介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術を学ぶ。 ・文章の書き方、情報の共有、管理の仕方を理解する事を目的とする 					
[授業の内容]					
1. 介護におけるチームのコミュニケーション			8. 報告の意義、目的		
2. 介護に関する記録の種類			9. 報告、連絡、相談の方法		
3. 記録の方法、留意点			10. 介護の目的と意義		
4. 記録の管理と共有化			11. 会議の種類		
5. ITを活用した記録の意義、活用の留意点			12. 会議の方法		
6. 記録における個人情報保護			13. 会議の方法、留意点		
7. 記録の活用			14. 会議の実際		
			15. まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「新・介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術」中央法規出版			出席状況、授業態度、レポートなどを総合的に評価する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
生活支援論		田中 泰恵		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	講義・演習	2単位
[授業のねらい・目標]					
<p>一連の介護サービスで行われる井蛙くつ援助の目的に対する知識を深め、サービス利用者の生活を支える意義について理解する。</p> <p>（到達目標）・利用者の日常生活を支える要素について理解できる・日常生活の文化的背景を理解できる・日常生活の連続性について理解できる</p>					
[授業の内容]					
1) 授業概要説明			10) 営みを支える要素（文化的側面）Ⅰ		
2) 人の営みとはⅠ			11) 営みを支える要素（文化的側面）Ⅱ		
3) 人の営みとはⅡ			12) 営みを支える要素（文化的側面）Ⅲ		
4) 営みを支える要素（身体的側面）Ⅰ			13) 営みを支えるための援助Ⅰ		
5) 営みを支える要素（身体的側面）Ⅱ			14) 営みを支えるための援助Ⅱ		
6) 営みを支える要素（身体的側面）Ⅲ			15) まとめ		
7) 営みを支える要素（環境的側面）Ⅰ					
8) 営みを支える要素（環境的側面）Ⅱ					
9) 営みを支える要素（環境的側面）Ⅲ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ 中央法規出版			まとめ・出席状況にて総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
生活行動のための介護Ⅰ		福島・田中泰・三ツ谷		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	30回	60時間	演習	2単位
[授業のねらい・目標]					
<p>尊厳保持の観点から、どのような状態であっても利用者の自立、自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。 （到達目標）・利用者の尊厳を保持した介護について理解できる・利用者の状態に合わせた介護技術の選択ができる・利用者、介護者双方にとって安全な介護ができる</p>					
[授業の内容]					
<p>介護技術を学ぶに当たっての諸注意 自立に向けた環境整備の介護 自立に向けた移動のための介護 自立に向けた整容のための介護 自立に向けた排泄のための介護 自立に向けた食事のための介護 総合演習</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉士養成講座 第6巻 第7巻 中央法規出版			総合演習内容、出席状況などにより総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
生活行動のための介護Ⅱ		福島・田中泰・三ツ谷		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	30回	60時間	演習	2単位
[授業のねらい・目標]					
<p>尊厳保持の観点から、どのような状態であっても利用者の自立、自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。 （到達目標）・利用者の尊厳を保持した介護について理解できる・利用者の状態に合わせた介護技術の選択ができる・利用者、介護者双方にとって安全な介護ができる</p>					
[授業の内容]					
<p>前期復習 自立に向けた移動のための介護② 自立に向けた環境整備の介護② 自立に向けた排泄のための介護② 感覚障害者のアセスメントと介護 運動機能障害者のアセスメントと介護 認知症高齢者のアセスメントと介護 知的障害者のアセスメントと介護 精神障害者のアセスメントと介護</p>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉養成校座 第8巻 生活支援技術Ⅲ 中央法規出版			総合演習・出席状況などにより総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護過程Ⅰ①・②		小川 あゆみ		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	30回	60時間	講義・演習	2単位
[授業のねらい・目標]					
介護過程展開のための基本的知識を習得すると共に、介護計画作成のための利用者へのアセスメント方法を理解する。 (到達目標)・ICFの概念を理解し、利用者支援の視点を理解する・一連の介護過程の手順を理解する・ICF概念に基づいたアセスメント方法を理解する					
[授業の内容]					
社会福祉援助活動における基本的枠組み アセスメントの実際とサービス計画書の作成 社会福祉援助活動の展開過程 利用者理解の視点（ICF） 自立支援と権利擁護 ICF概念を用いたアセスメント手順 アセスメント演習 記録と情報整理 記録演習 チームアプローチとチームケア					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉養成校座 第9巻 介護過程			演習、出席状況などにより総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護過程Ⅱ		福島 猛行		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	30回	60時間	講義・演習	2単位
[授業のねらい・目標]					
介護過程作成の意義を理解し、利用者へのアセスメントを踏まえた利用者ニーズの把握、利用者尊厳の保持、自立支援に基づいた援助計画の作成を行う。 (到達目標)・利用者の潜在的なニーズを理解する・利用者主体の介護を理解する・多職種、他機関を活用した援助内容を理解する					
[授業の内容]					
授業概要説明 事例発表 介護計画作成の意味 まとめ 介護計画作成に必要な要素 介護計画の作成（アセスメント） 利用者ニーズの把握 介護計画の作成（ニーズの把握） 援助目標の立て方 個別援助における留意点 内容の評価とリアセスメント					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉養成校座 第9巻 介護過程 中央法規出版			事例発表・出席状況などにより総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護実習指導Ⅰ		福島猛行・田中泰恵		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	講義・演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術、礼儀作法の確認、介護を行う上での倫理についての確認、オリエンテーション時の諸注意、また、実習終了後の総括、学生に対するスーパービジョンなどを実施する					
[授業の内容]					
授業概要説明 実習の目的の確認 2年間の実習の流れの説明 実習施設の理解 対人援助の基本姿勢 記録の記載方法 対人援助のロールプレー 実習手順説明（ⅠA） 実習に向けての確認					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 中央法規出版			学生の発表、出席状況などにて総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護実習指導Ⅱ		福島猛行・田中泰恵		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	15回	30時間	講義・演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術、礼儀作法の確認、介護を行う上での倫理についての確認、オリエンテーション時の諸注意、また、実習終了後の総括、学生に対するスーパービジョンなどを実施する					
[授業の内容]					
実習ⅠAに向けての再確認 実習ⅡAの意義と目的 実習ⅡAの記録の書き方 実習先施設の理解 実習ⅡAに向けての自己課題 実習手順説明 実習ⅡAの体験発表 実習後指導 今後の実習に向けての確認					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 中央法規出版			学生の発表、出席状況などにて総合的に判断する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護実習Ⅰ－A		福島猛行・田中泰恵		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期集中		45時間	実習	1単位
[授業のねらい・目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者の生活や個性を理解するという観点から、生活の場における個別ケアを理解すると共に、利用者の生活に着眼し、生活の援助に対する理解を深める。 ・利用者との円滑なコミュニケーションが図れる。 					
[授業の内容]					
【実施期間】 9月中旬～11月中旬（9回）			【実習内容】		
【実習時間】 1日あたり5時間			<ul style="list-style-type: none"> ・施設の業務見学、参加 ・利用者理解 ・個別援助の一部参加 ・レクリエーション活動への参加 ・実習日誌の作成 		
【実習場所】 認知賞対応型老人共同生活援助事業 （グループホーム）					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「介護実習の手引き（介護実習指導要領）」 青森明の星短期大学			施設からの実習評価、日誌内容、巡回指導時の実習態度などにより総合的に評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護実習Ⅱ－A		福島猛行・田中泰恵		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期集中	30回	90時間	実習	2単位
[授業のねらい・目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・学内で学んだ知識に基づき、福祉関連施設にて実習を行う。 					
[授業の内容]					
【第1週】			<ul style="list-style-type: none"> ・利用者とのコミュニケーションを深め、利用者に応じた日常生活の介護を実践する。 ・利用者へのアセスメントを行い、アセスメントシートの作成を行う。 ・カンファレンスを実施し、個別介護の全体像を知る 		
<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の概要を知る ・介護場面における技術の見学 ・個々の利用者との関わりを持つ 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
実習指導要領・実習日誌・その他			介護実習施設指導者と、介護実習指導教員とにより、態度、記録などで総合評価を行う。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
ころとからだのしくみ		葛西 淑子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
1・人体が相互に関連し合うしくみとなっていることが理解できる。 2・ころと脳の機能との関係が理解できる。 3・生きていくために必要な能力と脳の機能との関係が理解できる。 4・関連する専門用語が理解できる。					
[授業の内容]					
1・オリエンテーション 2・人体のしくみ① 3・人体のしくみ② 4・脳ところ① 5・脳ところ② 6・生命を支える脳のしくみ 7・生きていくための脳のしくみ （本能・感情）					
8・生きていくための脳のしくみ（感覚・運動） 9・生きていくための脳のしくみ（学習・記憶） 10・生きていくための脳のしくみ（思考・言語） 11・生きていくための脳のしくみ（意志・創造） 12・潜在能力・残存能力と脳 13・人命の尊重と人間の尊厳① 14・人命の尊重と人間の尊厳② 15・まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新介護福祉士養成講座 14 ころとからだのしくみ 中央法規 他 適宜紹介			出席率・レポート・テスト・授業態度等の総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
生命維持のためのからだのしくみ		葛西 淑子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	1年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
1・呼吸器系・循環器系・感覚器系のしくみと、その障害が生活に及ぼす影響について理解できる。 2・人体の機能から捉える死とライフステージの延長線上から捉える死の違いについて理解できる。					
[授業の内容]					
1・オリエンテーション 2・呼吸器系の構造と機能① 3・呼吸器系の構造と機能② 4・呼吸器系の障害と生活① 5・呼吸器系の障害と生活② 6・循環器系の構造と機能① 7・循環器系の構造と機能② 8・循環器系の障害と生活① 9・循環器系の障害と生活②					
10・感覚器系の構造と機能① 11・感覚器系の構造と機能② 12・感覚器系の障害と生活① 13・感覚器系の障害と生活② 14・人体の機能と死、人間の尊厳と死 15・まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
新介護福祉士養成講座 14 ころとからだのしくみ 中央法規 他 適宜紹介			出席率・レポート・テスト・授業態度等の総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
課題研究		専任教員		現代介護福祉学科	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	通年	30回	60時間	演習	2単位
【授業のねらい・目標】					
2年間で学ぶ全ての科目から各自が研究課題を見出し個人研究を行う。テーマは各自で設定し、それに相応しい研究方法を選び、オリジナルなレポートや作品を完成させる。1月に行われる課題研究発表会では、書き字の研究成果についてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは、PowerPoint、OHP、ホームページ、ポスターセッションのいずれかの形式とする。					
【授業の内容】					
1回目：全体指導 2回目～5回目：テーマ設定、構想 6回目：テーマ発表（ゼミ単位） 7回目～9回目：資料検索、インタビュー項目 10回目～14回目：構想演習 15回目：中間発表会（ゼミ単位） 16回目～29回目：演習、レポート作成 PowerPoint作成					
【使用テキスト・参考文献】			【単位認定の方法及び評価の観点】		
適宜、プリント等を配布			授業への出席、研究結果、口頭試問を総合的に評価する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
リハビリテーション論		川口 徹		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	講義	2単位
【授業のねらい・目標】					
授業のねらいは、ケアの視点から、広くリハビリテーションを理解することである。授業の目標は、リハビリテーションの基本を把握し、リハビリテーションに関連した介護技術を体得し、障害をリハビリテーションの視点から理解することである。					
【授業の内容】					
1. リハビリテーションの理念と基本原則 2. リハビリテーションの領域と役割 3. リハビリテーションに関する社会資源 4. リハビリテーションと福祉用具 5. 住宅改修、福祉の町づくり 6. リハビリテーション介護とは 7. リハビリテーション介護技術：ROMex 8. リハビリテーション介護技術：ADLex 9. 障害別リハビリテーション：脳卒中 10. 障害別リハビリテーション：心肺機能障害 11. 障害別リハビリテーション：整形外科疾患 12. 障害別リハビリテーション：高齢者・痴呆・精神 13. 地域リハビリテーション 14. まとめ 15. 「三浦雅史、李相潤と分担」					
【使用テキスト・参考文献】			【単位認定の方法及び評価の観点】		
澤村誠志責任編集「リハビリテーション論」メジカルフレンド社			1. 出席率及び授業態度、 2. 試験、 3. レポート		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
老人と障害者の心理Ⅱ（障害者）		前田晶子・外崎美香		現代介護福祉学科	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	講義	2単位
【授業のねらい・目標】					
障害がおよぼす心理的影響について理解する。障害者の心理への対応について理解する。障害者にためらいなく接することができる。					
【授業の内容】					
1 障害とは何か		8 障害の形態と心理的影響・・・1			
2 障害とからだのしくみ・・・1		9 受障時期と心理的影響・・・2			
3 障害とからだのしくみ・・・2		10 障害の受容			
4 障害がおよぼす心理的影響・・・感覚・知覚		11 障害の受容にかかわる要因			
5 障害がおよぼす心理的影響・・・認知		12 適応			
6 障害がおよぼす心理的影響・・・自己概念		13 適応規正			
7 障害がおよぼす心理的影響・・・発達・性格・行動		14 事例を通して対応を考える・・・1			
		15 事例を通して対応を考える・・・2			
【使用テキスト・参考文献】			【単位認定の方法及び評価の観点】		
『最新介護福祉全書9 障害者の心理と援助』メヂカルフレンド社			学習態度、レポート、日常の発表、予習情況テスト等を総合的に判断する。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
医学一般Ⅲ		森 明彦		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	講義	2単位
【授業のねらい・目標】					
介護福祉の専門職を展開する上で必要な医学的知識を学ぶ。「医学一般Ⅲ」では、医療システムや医事法制などの、いわゆる保健医療に関する基礎知識や概要等を学ぶ。					
【授業の内容】					
1. 医療システムの現状①		10. 保健医療対策の概要③：生活習慣病対策等			
2. 医療システムの現状②		11. 医事法制①：医療法			
3. 公衆衛生の動向①：人口動態		12. 医事法制②：医師法			
4. 公衆衛生の動向②：疾病と受療状況		13. 医事法制③：保健師助産師看護師法等			
5. 公衆衛生の動向③：医療関係者の現状		14. 医事法制④：医事法制の概要			
6. 公衆衛生の動向④：医療施設の現状		15. まとめ			
7. 公衆衛生の動向⑤：医療保障制度の概要					
8. 保健医療対策の概要①：老人保健対策					
9. 保健医療対策の概要②：精神保健対策					
【使用テキスト・参考文献】			【単位認定の方法及び評価の観点】		
『新版第3版 介護福祉士養成講座⑨ 医学一般』中央法規出版			出席率、授業態度レポートなどの総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
精神保健		村井 靖児		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期集中	15回	30時間	講義	2単位
〔授業のねらい・目標〕					
精神保健の意義と基礎知識について学んだ上で、ライフサイクルにおける精神保健の課題を理解する。地域・生活の場における精神保健について、その課題を考え、対処できる能力を養う。					
〔授業の内容〕					
1. 精神保健の概要① 意義とその重要性 10. 高齢者の精神障害① 定義や原因、出現率等 2. 精神保健の概要② 動向 11. 高齢者の精神障害② 症状と問題行動、対応の原則等 3. ライフサイクルにおける課題① 乳幼児期～幼児期 4. ライフサイクルにおける課題② 児童期～思春期 12. その他の代表的な精神障害の概要（心身症、神経症、躁鬱病、統合失調症等） 5. ライフサイクルにおける課題③ 青年期～成人期 6. ライフサイクルにおける課題④ 老年期 13. 精神保健福祉制度の概要① 精神保健福祉法の概要 7. 地域・家庭における精神保健活動 14. 精神保健福祉制度の概要② 人権保障、社会復帰 8. 職場における精神保健活動 15. まとめ 9. 精神障害とは					
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び評価の観点〕		
『新版 介護福祉士養成講座 第4版 ⑩精神保健』中央法規出版			出席状況、平常点、試験を総合的に評価する。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
レクリエーション活動援助法 I		木村 博子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	演習	1単位
〔授業のねらい・目標〕					
コミュニケーションの方法を学ぶと同時に援助者自身の人格・資質をより高めるための実践を積む。またレクリエーション活動種目を、できるだけたくさん体験し、その活用・応用方法を学ぶ。日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター取得科目の1つでもある。					
〔授業の内容〕					
1. 援助者としての人的資質について ③レクリエーション活動援助とソーシャルワーク 2. 介護福祉サービスにおけるレクリエーションの意義 8～9. レクリエーション計画の作成と実行 ①言語・非言語コミュニケーションについて ①利用者のレクリエーション・ニーズの実現 ②実際例紹介 3～7. レクリエーションの利用者と援助者について 11～14. 援助者側からのレクリエーション計画 ①レクリエーションの主体 15. まとめ ②レクリエーションの活動援助の個別性とグループワークの関係					
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び評価の観点〕		
レクリエーション活動援助法（中央法規出版社）			平常点（出席率・授業態度）および実技試験（グループへの援助方法）との総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
レクリエーション活動援助法Ⅱ		木村 博子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
レクリエーション援助者としての役割や活動の実際例、そしてその重要性などを学ぶ。またレクリエーション援助の展開例やレクリエーション材のアレンジ法などを学ぶ。さらに、コミュニケーション技術の向上を目指す。					
[授業の内容]					
1～2. コミュニケーションワークの研究 3～4. レクリエーション援助活動の実際 ①援助のための組織・環境値形成 ②楽しく安全なレクリエーションの実現 5～8. レクリエーション援助者の役割 ①援助者のポリシー ②チームケアの実践とレクリエーション援助 ③レクリエーション援助者の具体的業務			9. 治療的意味合いを含めたレクリエーション 10～14. レクリエーション援助の展開例 ①高齢者のレクリエーション援助 ②障害者のレクリエーション援助 ③レクリエーション財とその展開例 15. まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
レクリエーション活動援助法Ⅰと同じ			平常点（出席率・授業態度）と実技試験（個人への援助）との総合評価		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
ケアマネジメント論		小川 あゆみ		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
選択	前期	15回	30時間	講義	2単位
[授業のねらい・目標]					
「利用者の社会生活上のニーズを充足させるため、適切な社会資源と結びつける手続きの総体」であるケアマネジメントに関する基本的な知識や技術を身につける。また利用者の生活の質を高める為のケアマネジメントを実践する上で専門職としての視点、役割を明確にする。					
[授業の内容]					
1. 社会福祉援助活動における基本的枠組み 2. ケアマネジメントの基本 3. ケアマネジメントと福祉士 4. ケアマネジメントのプロセス ① 5. ケアマネジメントのプロセス ② 6. チームアプローチとチームケアの考え方 7. 公的介護保険とケアマネジメントサービス 8. 自立支援と権利擁護 9. チームアプローチとチームケアの考え方			10. 社会福祉援助活動の展開過程 11. ケアプラン作成手法 ① 12. ケアプラン作成手法 ② 13. アセスメントの実際とサービス計画書の作成 ① 14. アセスメントの実際とサービス計画書の作成 ② 15. 発表		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「生活支援のための施設ケアプラン」白澤政和著			1) レポート、2) 出席状況と授業態度、3) 試験		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
家政学実習Ⅰ（栄養・調理）		田中 泰恵		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	23回	45時間	実習	2単位
[授業のねらい・目標]					
<p>家庭経営、食に関する様々な技能を、実習を通し確実に出来るように実践的な能力を養う。特に高齢者や障害者の家庭生活支援能力を身につける。具体的には、基礎的な知識・技能の習得のみならず、献立作成、栄養価計算、状態に即した調理実習などを通して、食生活全般に対する総合的な判断力・実践力を身につける。</p>					
[授業の内容]					
1. 高齢者の生活史を知る 2. 家庭経済 消費生活 3. 家庭経済 消費者トラブル 4. 高齢者の食生活 5. 栄養計算と献立の立て方 6. 何をどれだけ食べたらいいか 7. 実習1 日常食の検討 8. 実習2 包丁の扱いと基本の切り方 9. 実習3 高齢者の普通食 10. 実習4 高血圧の食事 11. 実習5 骨粗鬆症の食事 12. 実習6 糖尿病の食事 13. 実習7 嚥下障害の食事 14. 食品衛生 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
後日示します			出席状況 レポート 実技テスト		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護技術Ⅲ		福島 猛行		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
<p>介護の基本技術を習得すると共に、個々の利用者にあったさまざまな介護方法を知る</p>					
[授業の内容]					
1) 介護技術復習 2) 介護技術復習 3) 心配蘇生法・救急法Ⅰ 4) 救急法Ⅱ 5) 薬剤服用時の介護 6) 感染予防、介護と医療行為 7) 入浴体験Ⅰ 8) 入浴体験Ⅱ 9) 入浴体験Ⅲ 10) 終末期の介護Ⅰ 11) 終末期の介護Ⅱ 12) 居宅での介護Ⅰ 13) 居宅での介護Ⅱ 14) まとめ 15) 講評					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
1年次の介護技術と同様			授業理解度、出席などで総合的に評価する		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
形態別介護技術Ⅱ		福島猛行・葛西淑子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	通年	30回	60時間	演習	2単位
[授業のねらい・目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内部障害者・肢体不自由者・精神、知的障害者について、それぞれの障害の特性の理解。 ・ それぞれの障害に応じた介護及び援助に関する知識を深める。 ・ 個人の生活環境に応じた介護の工夫、及び家族援助のあり方にも言及する。 					
[授業の内容]					
【内部障害】 ・ 内部障害と関連医学領域の基礎知識 ・ 内部障害の介護上の配慮点 ・ 他の障害との重複障害 【肢体不自由者】 ・ 肢体不自由と関連医学領域の基礎知識 ・ 肢体不自由者の介護上の配慮点 ・ 肢体不自由者のQOLと社会参加 ・ 他の障害との重複障害			【精神、知的障害者】 ・ 精神、知的障害と関連医学領域の基礎知識 ・ 精神、知的障害者の介護上の配慮点 ・ 精神、知的障害者のQOLと社会参加 【総論】 ・ 障害者と生活援助 ・ まとめ		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
最新介護福祉全書16「形態別介護技術」メ ジカルフレンド			授業の出席数・科目試験・授業態度・レポート		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
形態別介護技術Ⅲ		福島猛行・對馬礼子・千葉 新一		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚・言語障害者、視覚障害者の介護について知識を深める。 ・ 聴覚・言語障害者のコミュニケーションおよび日常生活介護の理解（演習） ・ 視覚障害者の移動および日常生活介護の理解（演習） 					
[授業の内容]					
【総論】 聴覚・言語障害者、視覚障害者への介護の特性 障害に起因する生活上の諸問題 【聴覚・言語障害者】 手話、筆談、補聴器など福祉用具の取り扱い （集中講義） 【視覚障害者】 移動、歩行、コミュニケーション介護 （集中講義）					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
最新介護福祉全書16「形態別介護技術」メ ジカルフレンド、その他授業中に配布			授業の出席数・科目試験・授業態度・レポート		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護実習Ⅱ		福島猛行・田中志子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期集中			実習	2単位
[授業のねらい・目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の機能と介護福祉士の役割を理解する ・個別介護過程展開の実際を学ぶ ・介護技術の習得 					
[授業の内容]					
<ul style="list-style-type: none"> ・個別介護過程の展開の学習のため、1人の利用者を受け持つ ・日常生活における介護技術を学ぶ ・受け持ち利用者の身体・心理・生活の観察 ・利用者への生活の楽しみを援助する ・受け持ち利用者のニーズを探る ・他職種、他機関との連携 ・カンファレンスを実施し、助言、指導を受ける ・情報を整理し、介護計画を作成する 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
実習指導要領・実習日誌・その他			介護実習指導者と、介護実習指導教員とにより、態度、記録などで総合評価を行う。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護実習Ⅲ		福島猛行・田中志子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期集中	45回	135時間	実習	3単位
[授業のねらい・目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の機能と介護福祉士の役割を理解する ・個別介護過程展開の実際を学ぶ ・介護技術の習得 					
[授業の内容]					
<ul style="list-style-type: none"> ・個別介護過程の展開の学習のため、1人の利用者を受け持つ ・日常生活における介護技術を学ぶ ・受け持ち利用者の身体・心理・生活の観察 ・利用者への生活の楽しみを援助する ・受け持ち利用者のニーズを探る ・他職種、他機関との連携 ・カンファレンスを実施し、個別援助計画の実施経過と評価・反省・考察を行い指導を受ける ・計画を実施し、内容の評価を行う 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
実習指導要領・実習日誌・その他			介護実習施設指導者と、介護実習指導教員とにより、態度、記録などで総合評価を行う。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
訪問介護実習		福島猛行・田中志子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期集中	15回	45時間	実習	1単位
[授業のねらい・目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・在宅高齢者と家族の生活状況を把握し、在宅介護のあり方を学ぶ ・介護保険制度における訪問介護サービスを理解する ・社会資源の活用、他職種との連携について知る 					
[授業の内容]					
<ul style="list-style-type: none"> ・職員と利用者、家族との関わりを学ぶ ・訪問介護員の業務内容を知る ・訪問介護の実際を知る ・社会資源の活用、連携の具体例を知る ・訪問介護員の同行を通じ、在宅での介護を知る ・在宅支援センターでの業務を知る 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
実習指導要領・実習日誌・その他			介護実習施設指導者と、介護実習指導教員とにより、態度、記録などで総合評価を行う。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護実習指導Ⅱ		福島猛行・田中志子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	前期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
<ul style="list-style-type: none"> ・体験実習を通じて学内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ実際に理解できるようにする。 					
[授業の内容]					
<ol style="list-style-type: none"> 1、介護福祉実習の意義と目的 2、2段階実習記録の書き方 3、2段階実習記録の書き方 4、2段階実習の実習先理解 5、2段階実習の一般的理解 6、2段階実習の自己課題の理解 7、事例に基づく記録の書き方 8、記録の表現方法 9、訪問介護実習とは 10、訪問介護実習体験の共有化 11、訪問介護実習のまとめ 12、介護福祉士として振り返り 13、訪問介護についての発表 14、2段階実習の記録のまとめ 15、まとめ 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「実習の手引き」			学生の発表、出席状況などにて総合的に評価する。		

授業のタイトル（科目名）		授業担当者		学科	年次
介護実習指導Ⅲ		福島猛行・田中志子		現代介護福祉学科 介護福祉専攻	2年
必修・選択	開設期間	授業の回数	時間数	授業形態	単位数
必修	後期	15回	30時間	演習	1単位
[授業のねらい・目標]					
介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能、及び自己に求められる課題把握等、総合的対応能力を修得できるようにする。 事例研究の進め方を修得する。					
[授業の内容]					
1、実習記録の書き方 2、実習記録の書き方 3、介護過程の事例に基づき展開 4、介護過程の事例に基づき展開 5、3段階実習の施設理解 6、利用者の生活ニーズの理解 7、ケアチームと各部門の役割 8、レク活動やグループ活動について 9、介護実習記録のまとめ 10、介護実習記録のまとめ 11、介護実習報告書作成について 12、介護実習報告書作成について 13、介護実習報告書まとめ 14、介護実習報告書まとめ 15、介護実習報告会					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び評価の観点]		
「実習の手引き」			学生の発表、出席状況などにて総合的に評価する		